

道路15 国道32号の一次改築(香川県)

資料名	ストック効果に関する記述
四国の建設のあゆみ編纂委員会編「四国の建設のあゆみ」(四国建設弘済会、1990年)、761-762頁	猪ノ鼻地区 三二号が香川・徳島県境に東西に連なる阿讃山脈を横断する猪ノ鼻峠は、明治の先覚者大久保謙之丞により建設された四国新道の一部で、標高五五〇メートル、幅員四・五～五・〇メートルで、急勾配、小屈曲の連続で三二号でも、大歩危、小歩危とならび最大の難所とされていた。このため、線形の改良と標高を下げることを主として検討され、猪ノ鼻トンネル(延長八二七メートル)、込野トンネル(延長三五四メートル)、込野橋(橋長七五メートル)により、現道延長七・七キロメートルから二・二キロメートルに短縮されるとともに標高も四一三メートルとなり、冬季の積雪による交通不能も解消された。
建設省四国地方建設局監修「四国地方建設局二十年史」(四国建設弘済会、1978年)、411頁	猪の鼻トンネル工事 (中略)この新道国道完成により屈曲、勾配が大巾に緩和され、時間にして30分程度、距離にして5.5km短縮され、また海拔550mであったものが410mとなり、冬期の積雪による交通不能も解消された。
建設省四国地方建設局監修「四国地方建設局十年史」(建設省四国地方建設局、1968年)、397頁	猪の鼻トンネル工事 (中略)この新道国道完成により屈曲、勾配が大幅に緩和され、時間にして30分程度、距離にして5.5km短縮され、また海拔550mであったものが410mとなり、冬期の積雪による交通不能も完全に解消された。
大倉一夫「備讃の海に橋を架けよ」(財田町役場、1988年)、105頁	国道32号改良工事 この国道改良工事は昭和四〇年代まで継続され、謙之丞の開削した新道は昭和三七年まで幹線道路として利用され高知、徳島の交通、地域開発に大きな効果をもたらした。讃岐新道は昭和四〇年九月、猪ノ鼻トンネルの完成によって約七〇年間に及ぶ四国開発の役割をはたし、改良後は新しく生まれ変わって四国の幹線自動車道路として、いまも生き続けている。
土木学会四国支部編「四国に豊かさ潤いをもたらした土木事業」(四国建設弘済会、1995年)、41頁	猪ノ鼻トンネル (中略)線形の改良と標高を下げ、円滑な自動車交通を確保することを目的として猪ノ鼻トンネルや込野トンネルなど大小七つのトンネルが、阿讃山脈を貫通して建設され、昭和四二年に香川と徳島を結ぶ大動脈として生まれ変わった。これにより、峠越えの延長は七・七キロメートルから二・二キロメートルに短縮されるとともに標高も四一三メートルとなり冬季の積雪による交通不能も解消された。